

2017年7月21日

## ランディス・ギア・グループ社の株式売却について

株式会社産業革新機構（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：勝又幹英、以下INCJ）は、同社が保有するランディス・ギア・グループ社（本社：スイス ツーク、最高経営責任者：リチャード・モーラ）の全株式について、このたびスイス証券取引所にて売却しましたことをお知らせいたします。

ランディス・ギア・グループ社は、スイスに本社を置く電カスマートメーターの世界最大手であり、同社がこのたびスイス証券取引所に上場したのに伴い、INCJは保有する全株式を売却することになりました。INCJは、2011年7月に、ランディス・ギア・グループ社への出資を決定し、同社株式の40%を保有していました。

参考) INCJ は、2011年7月25日に「産業革新機構、株式会社東芝とともに、スマートメーター世界最大手のランディス・ギア社への出資を決定」を公表しています。  
URL <http://www.incj.co.jp/PDF/1417598161.01.pdf>

## ランディス・ギア・グループ社 (Landis+Gyr Group AG) について

事業開始	1896年12月
事業内容	電気、ガス、水道メーター等の設計、製造、販売、 統合エネルギーマネジメントソリューションの提供
本社所在地	スイス、ツーク
最高経営責任者	リチャード・モーラ (Richard Mora)
大株主及び持株比率	株式会社東芝 60%、INCJ 40%
URL	<a href="http://www.landisgyr.com/">http://www.landisgyr.com/</a>

## 株式会社産業革新機構 (INCJ) について

INCJ は、2009年7月にオープンイノベーションの推進を通じた次世代産業の育成を目指して、法律に基づき設立された会社です。総額約2兆円の投資能力を有しており、革新性を有する事業に対し出資等を行うことで産業革新を支援することをミッションとしています。

INCJ は、投資・技術・経営等で多様な経験をもつ民間人材によって運営されており、法令に基づき、当社内に設置している産業革新委員会にて、政府の定める支援基準に従って投資の可否の判断を行い、日本の産業革新に資する投資を実施いたします。

<本発表資料のお問い合わせ先>

株式会社 産業革新機構 企画調整 Gr 広報 入江、坂井  
東京都千代田区丸の内1-4-1 丸の内永楽ビルディング21階  
電話：03-5218-7202

[別紙]

## **1. 対象事業会社**

ランディス・ギア・グループ社(Landis+Gyr Group AG)

- ・事業開始 : 1896年12月
- ・代表者 : リチャード・モーラ(Richard Mora)
- ・所在地 : スイス・ツーク
- ・事業内容 : 電気、ガス、水道メーター等の設計、製造、販売  
統合エネルギーマネジメントソリューションの提供

## **2. 支援決定概要**

- ・支援決定金額: 600億円(上限)
- ・実投資額: 680百万米ドル(約535億円)
- ・共同投資家: 株式会社東芝
- ・株式保有割合: 40%
- ・支援決定公表日: 2011年7月  
<https://www.incj.co.jp/news/upload/docs/1417598161.01.pdf>
- ・投資ストラクチャー図:  
<https://www.incj.co.jp/performance/upload/docs/1417598161.02.pdf>

## **3. 経緯**

### **(1) 出資の経緯**

2011年7月、INCJは東芝とともに、スマートメーター世界最大手のランディス・ギア社の共同買収を発表しました。出資比率は、INCJ:東芝=40:60となります。

スマートグリッドは、自然エネルギーへの注目、政策的支援から、欧州市場だけでなく中国を中心としたアジア市場での成長が注目されており、INCJは、今回の買収により、グローバル市場において、スマートグリッドに必要な製品・サービスを一貫して提供できる競争力のある日本企業の創出が期待できると判断し、680百万米ドルを出資しました。

### **(2) 事業の進捗**

買収以降、ランディス・ギア社の業績は堅調に推移し、東京電力がランディス・ギア社の通信技術を基盤にスマートメーターネットワークを導入し、電力需給のひっ迫解消にも貢献するなど、日本へのスマートグリッドの導入促進及び将来的な送配電インフラ輸出の可能性に成果を見出しています。しかしながら、市場環境の状況もあり、当初目論んでいたスマートグリッド制御ビジネスの本格普及には至りませんでした。

### **(3) Exitの経緯・内容**

その後、共同投資家の経営状況など、様々な状況の変化から INCJ は Exit の方法を検討してきましたが、市場にて株式を売却するのが最も適切と判断し、2017 年 7 月、INCJ は、ランディス・ギア社がスイス証券取引所に上場したのに伴い、保有する同社の全株を売却しました。本件について、東芝とは連携をとっていましたが、最終的には、それぞれが独立した判断を行った結果であります。

#### **4. 主務大臣(経済産業大臣)の意見**

売却に際して、国内スマートメーターネットワークの導入に影響が生じないよう、必要な措置が取られることを確認し、経済産業省と密に連携するよう努められたい。